

## 短期派遣 EUROPA 報告書

博士後期課程 2 年

蔦原亮

### 派遣先学会

Congreso internacional de jóvenes lingüistas 於セビージャ大学

### 派遣期間

2012/11/10-2012/11/18

### 発表テーマ

Sobre la exclusión de forma cantaré en la apódoxis.

邦題：スペイン語未来形の条件文からの排除について

### 学会について

Congreso internacional de jóvenes lingüistas は若手言語学者のための学会である。主に博士論文提出を直前に控えた博士課程の学生が研究発表を行う。また、そうした若手言語学者の研究発表の合間に、スペイン、および世界各国の大学で教鞭をとる研究者の講演も数多くあった。

### 報告者の発表について

本発表では条件文\*Si quieres, me **esperarás**.(If you want, you will wait for me)が容認されない理由を考察した。

まず、問題となる条件文は、帰結節の形式を未来形(**esperarás**)から現在形、または命令形(**esperas, espérame**)に置き換えることで容認されることを述べ、この問題が未来形の性質に密接に関係していることを示した。その上で、非容認性を説明するために、未来形をどのように扱うべきかを論じた。伝統的に、当該の形式は一義的に、ある時点に対する後時性を表すとする立場と、不確実性を表すとする立場があるが、後者を採用すると述べた。何故なら条件文の帰結節とは条件節に対する後時性が基本的に保証されている。従って、そうした帰結節は後時性を表す要素にとっては好ましい環境ということになるが、実際には未来形が排除される。この事実から、当該形式が表している価値は後時制ではなく、別の価値であるということが推察されたため、当該形式を不確実性の形式とみなし、その上で問題となる非容認性を論じるという前提を打ち立てた。

次に、条件文帰結節から未来形は常に排除されるわけではないことを示した。コーパスにおける調査、および、インフォーマントテストの結果によれば、以下の三条件が全て満

たされた場合にのみ、帰結節から未来形は排除される。

- ① 帰結節内の動詞の主語が聞き手を含み (tú:君、vosotros:君たち、nosotros:私たち (聞き手を含む) )
- ② 条件節が聞き手の願望を表し (si quieres: 君が良ければ、si tienes ganas: 君がそうしたいなら)
- ③ 帰結節内の動詞が動作主性を持つ場合 (esperar: 待つ、comprar: 買う、comer: 食べる)

(1) Si quieres, me \*esperarás (よかったら、ぼくのことを待っててよ) .

(2) Si tienes dinero, tú comprarás un coche. (君はお金を持っていれば、車を買うんだろうね)

本発表の考察の対象となる(1)は上述の三条件をすべて満たしており、帰結節内での未来形esperarásの使用は容認されない。一方、(2)は帰結節内の動詞の主語がtú (君) であり、動詞comprarは動作主性を持つことから条件①、③を満たしている。しかし、条件節Si tienes dinero (もし君がお金を持っていたら) は特に聞き手の願望を表してはいない。従って、条件②を満たさない。そのため、全ての条件を満たさないことになり、帰結節での未来形comprarásの使用は容認される。

この一般化を行ったうえで、条件をすべて満たした場合と満たさない場合ではどういった差異が生じるのかを検討した。本発表では、その要素は帰結節の解釈であると主張している。(1)と(2)の帰結節の解釈を比較すれば明らかである通り、条件が全て満たされた場合(1)は、帰結節は話者の聞き手への依頼、許可、命令と解釈され、満たさない場合(2)では帰結節は全体として話者の予想として解釈される。こうして、所謂未来形の一義的機能は不確実性を表すことであり、未来形は以来、許可、命令を表す帰結節から排除されるという事実を確認し、何故、Si quieres, me esperarás.は容認されないか? という問題は、何故、不確実性は義務的モダリティと共起しないか? という問題に換言できることを示した。

そして、この問題は論理的理由によるとする見解を述べた。論理的に、不確実なことを予測することは問題がないが、命令することは困難である。この主張は、(3)や(4)の対比や、低い蓋然性を表す副詞が義務的モダリティを表す動詞の従属節内には表れないという事実を支えられる。

(3) I think maybe I'll be here for a day or two. ○[[不確実性]予想]

予想

(4) \*I ask you to maybe come here tomorrow. ×[[不確実性]依頼]

依頼

(1)では不確実性を表す要素（この場合は形態素-rás）が義務的モダリティを帯びている帰結節の内側に生起している。従って、一種の論理的な破綻が起きているのだと考えられると結論付けた。

また、帰結節という後時性の保証された環境から未来形が排除されることを指摘し、当該形式を不確実性の形式とみなすことで問題とした非容認性を説明できることを示した本稿は、未だに結論の出ていない、未来形の文法的価値は後時か不確実性かという議論に新しい視点を提供したといえる。

## フィードバック

報告者の発表には15人前後の学生、および教員が来てくださり、発表後の質疑応答の時間、ならびに、懇親会などで様々な意見を下さった。以下に頂いたコメントの一部を紹介する。

〈ポジティブなコメント〉

- 未来形が排除される環境に着目し、排除される理由をつきつめることで、当該形式の性質を考察するというアプローチがよい。
- 報告者の主張は（少なくともコメントを下さった方にとっては）直観的に受け入れやすいものであった。
- 発表の構成は明確に組み立てられており、話し方も聞きやすい、ゆったりとしたものであった。

〈助言〉

- タイトルから発表の内容が想像しにくく、事前に予想していたものとはかなり異なる内容であった。例えば、『何故、si quieres, me esperarásの非容認性』のような、具体的に発表の内容を想起させるタイトルのほうがよいだろう。
- 誤解を避けるために、タイトルに「未来形」ではなく **cantarás** というラベルを使用しているが、文法を研究していない研究者以外にはわかりづらいラベルであるため、少なくともタイトルでは未来形という用語を用いたほうがよかったのではないか。
- 発表では未来形を推量の形式とするための、先行研究における根拠、および、報告者なりのものが紹介されたが、通時的な研究では未来性と不確実性の関連性は盛んに論じられているので、目を通しておくとよいだろう。

また、報告者の主張を正しく理解できているか、質問、確認に来てくださった方が数名あった。そうした質問、確認の内容の多くは、こちらとしてはわかりやすく説明したと思っていたこと、もしくは自明だと思いこんでいた事柄であった。

聞き手を意識し、わかりやすい発表を心がけながら、発表を構成したつもりであったが、徹底していない部分があったように思われる。この反省を生かし、今後、研究を発表する際にはより、聞き手を意識した構成にすることを徹底したい。

## **今後**

今回の研究発表は、三月末に投稿した論文の内容と重なる部分が多くある。論文は現在査読中で、今後、内容について査読者から様々な質問や修正の要請が送られることになると思われるが、今回の学会発表で頂いた様々なご意見を活かし、査読者と議論を進め、より良い論文を出版したい。

## **謝辞**

最後になりましたが、前回のマドリード自治大学派遣に続き、貴重な機会を与えて下さった OFIAS、ならびに、事務局の皆様にご心からの感謝をお伝えしたいと思います。前回同様得るものの多い、有意義な滞在でした。